

平成23年度 事務事業評価表(平成22年度分に係る報告)

| | | | | | |
|-----------|-----------|-------------|------|-------|------|
| 評価対象事務事業名 | 保育所職員研修事業 | | | 事業コード | 0486 |
| 担当課等 | 所属名 | 保健福祉部 児童福祉課 | | 担当係名 | |
| | 課長名 | 石塚 千英司 | 担当者名 | 山本 英朝 | 電話番号 |

1. 事務事業の基本情報

| | | | | | | |
|---|---|-----------------|----------|-------------|---------------------------------|----------|
| 総合計画体系 | 施策の柱 | いきいきとして安心できる暮らし | コード 1 | 施策 | みんなで支える子育て支援の展開 | コード 6 |
| | 基本事業 | 保育環境の充実 | コード 1 | 関連予算 費目名 | 一般会計 3款 2項 5目 保育所管理運営事業(001-01) | |
| | 特記事項 | | | | | |
| 事業期間 | <input type="radio"/> 単年度 <input checked="" type="radio"/> 単年度繰返 <input type="radio"/> 期間限定複数年度 ⇒ (開始年度 54年度～) | | | | | |
| 事務事業の概要 | 公立保育所職員の保育実技や知識の習得を目的に内部職員研修及び派遣研修を行う | | | | | |
| 根拠法令等 | 地方公務員法39条1項, 2項, 3項 | | | | | |
| この事務事業を開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか) | | | | | | |
| 公立保育所職員の保育実技や知識の習得を目的に昭和54年度から行っている。 | | | | | | |
| この事務事業に対して関係者(市民, 議会, 事業対象者, 利害関係等)からどのような意見・要望が寄せられているか | | | | | | |
| 職員の資質及び保育の質の向上のため, 研修をより系統的・効果的に行うこと。平成20年度より岩手県立社会福祉研修所が廃止となり, 岩手県が岩手県社会福祉事業団へ委託を行うが, 研修の数が減少しており, その代替の研修の確保を求められている。 | | | | | | |
| 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令)はどうか。今後の見通しはどうか | | | | | | |
| 平成21年度施行の改定保育所保育指針(告示化)により, より保育士等の資質の向上が求められ, 研修を系統的・効果的に行わなければならない。 | | | | | | |

2. 事務事業の実施状況(Do)

| | | | | | | |
|--|---|---|--------------------------|--|----|---|
| ①対象 (誰を, 何を対象としているのか) | 公立保育所職員 | ⇒ | ②対象指標 (対象の大きさを示す指標) | A. 公立保育所職員数 | 単位 | 人 |
| | | | | B. | 単位 | |
| | | | | C. | 単位 | |
| ③手段 (事務事業の内容, やり方, 手順) | 22年度実績(22年度に行った主な活動) 児童福祉課にて派遣計画を策定し, 各研修会に保育所職員を派遣した。また, (保育士によって構成される)内部研修幹事会にて, 研修の年間計画を策定し, 年5回の研修会を開催した。 23年度計画(23年度に計画している主な活動) 児童福祉課にて派遣計画を策定し, 各研修会に保育所職員を派遣した。また, (保育士によって構成される)内部研修幹事会において, 研修の年間計画を策定し, 年4回程度の研修会(講義等)を開催する予定としている。 | ⇒ | ④活動指標 (事務事業の活動量を示す指標) | A. 研修実施回数 | 単位 | 回 |
| | | | | B. 研修参加者数(のべ回数) | 単位 | 人 |
| | | | | C. | 単位 | |
| ⑤意図 (この事業により対象をどのように変えるのか) | 公立保育所職員として求められる保育技術や保育知識を習得し, 職務効率の向上を図る。 | ⇒ | ⑥成果指標 (意図の達成度を示す指標) | A. 有意義な研修であったと感じた参加者数 【指標の性格: ● 上げる ○ 下げる ○ 維持する】 | 単位 | 人 |
| | | | | B. 【指標の性格: ○ 上げる ○ 下げる ○ 維持する】 | 単位 | |
| | | | | C. 【指標の性格: ○ 上げる ○ 下げる ○ 維持する】 | 単位 | |
| ⑦結果 (上位基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するか) | 良好に保育される安心して働ける | ⇒ | ⑧上位成果指標 (上位基本事業の成果指標) | 待機児童数(4月1日現在)(単位:人) | | |

2. 事務事業の実施状況(続き)

⑨事務事業の各種指標の実績及び目標値

| 区分 | 指標名 | 単位 | 20 年度実績 | 21 年度実績 | 22 年度計画 | 22 年度実績 | 23 年度計画 | 24 年度計画 | 目標年度 目標値 |
|-----------|--------------------|----|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|
| 対象 指標A | 公立保育所職員数 | 人 | 250 | 242 | 238 | 239 | 238 | 234 | 26年度 225 |
| 対象 指標B | | | | | | | | | 年度 |
| 対象 指標C | | | | | | | | | 年度 |
| 活動 指標A | 研修実施回数 | 回 | 25 | 20 | 25 | 24 | 27 | 30 | 26年度 35 |
| 活動 指標B | 研修参加者数(のべ回数) | 人 | 293 | 277 | 280 | 274 | 285 | 290 | 26年度 300 |
| 活動 指標C | | | | | | | | | 年度 |
| 成果 指標A | 有意義な研修であったと感じた参加者数 | 人 | 293 | 277 | 280 | 274 | 285 | 290 | 26年度 300 |
| 成果 指標B | | | | | | | | | 年度 |
| 成果 指標C | | | | | | | | | 年度 |

⑩事務事業に係る事業費

| 区分 | 指標名 | 単位 | 20 年度実績 | 21 年度実績 | 22 年度計画 | 22 年度実績 | 23 年度計画 | 24 年度計画 | ***** |
|----------|--------------------------|----|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------|
| 事業費 | A | 千円 | 947 | 655 | 1,350 | 1,169 | 1,350 | 1,350 | ***** |
| 財源 内訳 | ④国 | 千円 | | | | | | | ***** |
| | ⑤県 | 千円 | | | | | | | ***** |
| | ⑥地方債 | 千円 | | | | | | | ***** |
| | ⑦一般財源 | 千円 | 947 | 655 | 1,350 | 1,169 | 1,350 | 1,350 | ***** |
| | ⑧その他 | 千円 | | | | | | | ***** |
| | 合計(④~⑧)(=A) | 千円 | 947 | 655 | 1,350 | 1,169 | 1,350 | 1,350 | ***** |
| | 延べ業務時間数 | 時間 | 550 | 400 | 380 | 380 | 380 | 380 | ***** |
| | 職員人件費(B)(臨時職員賃金は、事務費に含む) | 千円 | 2,200 | 1,600 | 1,520 | 1,520 | 1,520 | 1,520 | ***** |
| | トータルコスト(A)+(B) | 千円 | 3,147 | 2,255 | 2,870 | 2,689 | 2,870 | 2,870 | ***** |

3. 事務事業の評価(See)

| | | | |
|-------|--|---|----------------|
| 有効性評価 | ①成果の向上余地 成果がもっと向上する余地はありますか？ | <input checked="" type="radio"/> 向上余地がある <input type="radio"/> 向上余地がない | ⇒ 4. 事務事業の改革案へ |
| 効率性評価 | ②事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を節減できる余地はありますか？ | <input type="radio"/> 削減余地がある <input checked="" type="radio"/> 削減できない | ⇒ 4. 事務事業の改革案へ |
| 効率性評価 | ③人件費の削減余地 成果を下げずに人件費(延べ業務時間数)を削減する余地はありますか？ | <input type="radio"/> 削減余地がある <input checked="" type="radio"/> 削減できない | ⇒ 4. 事務事業の改革案へ |

その内容:保育士を中心とし、専門的な研修が多いことから、岩手県や保育関連団体と連携し、職員のキャリアアップが図られるよう職員研修の体系化されたプログラムを構築する必要がある。

理由:研修の多くが、厚生労働省が外郭団体に実施させている派遣研修であり、旅費及び参加費等は必要最小限の事業費であることから削減は困難である。

理由:職員を派遣するために必要な人件費は、必要最低限の時間数で行っていることから削減は困難である。また、公立保育所の保育士のほか、私立保育所に対しても開催案内の送付や取りまとめを行っており、削減は困難である。

4. 事務事業の改革案(Plan)

| | |
|---------|--|
| 改革/改善方向 | ①改善の方向性(この事務事業をどう変えていくか、廃止や拡充、事業方式改善など) ※複数ある場合は、代替案その1、代替案その2とすること 今年度においても引き続き、非常勤・臨時保育士の研修への参加を拡充するとともに、保育所職員のキャリアアップを図るため、継続して研修計画の見直しを行う。 ②改革、改善を実現していく際に想定される問題点は何ですか？ それをどう克服していきますか？ (関連部門や全庁的な調整の必要性、トップへの要望も含む) ① 改定保育所保育指針で職員の質の向上や研修の充実が求められているが、岩手県立社会福祉研修所の廃止により、研修のメニューが減少していること。主任保育士研修、課題別研修、保健衛生研修、給食担当者研修、認可外保育所研修など。 ② 代替としての研修を計画しなければならないが、研修費用について受益者負担が難しいこと。また限られた予算の中で今以上に一般経費から研修の費用を捻出が難しい。 ③ 市保育所協議会でやっている研修と市で行っている研修の見直しを図るとともに、保育所研修の全体を見直すものとする。 |
|---------|--|

5. 課長意見

| | | | |
|---|---|--|--|
| 一次評価 | (1)評価結果 ① 有効性 : <input checked="" type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 見直し余地あり ② 効率性 : <input checked="" type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 見直し余地あり |  | (2)全体総括(振り返り, 反省点) 保育士の資質向上を図るため、勤務形態に関係なく各種研修への参加の確保に努めた。今後も引き続き研修の充実を図る必要がある。 |
| 今後の方向性と改革改善案 | (3)今後の事務の方向性(改革改善案) <input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 | | |
|  | | | |
| 方向付けの理由と改革改善の内容 外部研修は、できるだけ多くの職員が参加できるよう検討する。 | | | |